

今週（10月3日から10月7日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週に比べて日銀当座預金残高が減少し、300兆円台後半での推移となった。4日に法人税・年金保険料揚げ、6日の10年債の発行等の要因で当座預金が減少した。これに加え、積み期前半に政策決定会合があった事や、9月末に調達を控えていた先などから、遅れを取り戻す為の積極的なビッドが入ったことで、無担保コールO/Nは、週を通して調達ニーズの強い展開となり、概ね▲0.05～▲0.01%での取引となった。無担保コールO/N加重平均レートは日々上昇する展開となり、7日の加重平均レートは▲0.018%と、4月15日以来（▲0.01%）の水準まで上昇した。

ターム物は、O/Nのレート上昇を受け、1W程度のショートタームで、▲0.03～▲0.01%で調達する先が多数見られた。固定金利方式による共通担保資金供給オペは2本オファーされた。5日に3M物が5,000億円オファーされた。今回の3M物には、10月期日の3M物4本が集約化される予定であるため、落札額は210億円(10月中に期落ちを迎える4本の合計額230億円)となった。6日には、1Wロング物が8,000億円オファーされ、落札額2,010億円(期落ち額2,400億円)となった。

●レボ市場

今週のO/N GCは、▲0.09～▲0.07%程度での取引が中心となり、週を通して投資家からのまとまった資金調達が見られた。3日から5日にかけてのS/Nは、▲0.09～▲0.085%中心の出会い。6日のS/Nは、短国の3M物と6M物の発行が重なる事から、業者の売り物が増加し、▲0.08～▲0.07%程度までレートが上昇した。7日のS/Nは、短国買入オペがオファーされたものの、さほどレートは変わらず▲0.08～▲0.075%程度の出合いとなった。

SCIは個別銘柄では5y125～129、10y336～344、30y48～52、40y9などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、2本の入札が実施されたものの、品薄感が強い中、全般的に材料も無く、閑散小動きのマーケットとなった。

5日に6M物、6日に3M物の入札が実施され、6M物は短国買入オペを睨んでの積極的な応札姿勢から好調な入札となった。一方で、3M物は海外勢の買い意欲が一頃より減少していることもあり、前回債よりは軟調な入札となった。6M物は、平均▲0.3743%、按分▲0.3643%と引続き強めの決着となり、セカンダリー市場では一時▲0.449%まで買い進まれるなど堅調に推移した。3M物は海外勢の買い意欲の後退による在庫の積みあがりを警戒してか、平均▲0.3274%、按分▲0.3120%とやや軟調な結果となった。セカンダリー市場でも、▲0.32～▲0.31%程度の小甘い推移となった。

7日に30,000億円で実施された短国買入オペは、オペ見合いで買い進まれていた6M物と、売却が進んでいない3M物(636回債)中心の応札と見られ、平均落札利回較差+0.020%、按分落札利回較差+0.013%と小甘い結果となった。応札額も64,158億円と売却ニーズの強さを反映していた。

●CP市場

今週のCP市場は、入札ベースの週間償還総額4,000億円程度に対し、鉄鋼・機械・石油・商社・ノンバンク業態等から大型の発行案件が見られ、週間発行総額は6,000億円程度に膨らんだ。しかし、9月末の大型償還による市場発行残高急減(9月末残高:12兆9,840億円)からの回復には至らず、7日時点での市場発行残高は135,000億円程度と見込まれる。発行レートは、発行案件が伸び悩むなか、投資家の買い意欲が強く、引き続き低位横ばい圏での推移となった。ただ、マイナスレートでの購入意欲は弱まっており、0%近辺での取引が多く見られた。

5日にはCP等買入オペが、オファー額3,500億円(前回比▲2,000億円)で実施された。入札結果は平均・按分落札利回共に▲0.001%と前回(前回:平均▲0.032%、按分▲0.067%)比で大幅に上昇した。オファー額が減額される一方で、応札額が9,474億円と多く、売却需要が強かったことが上昇の要因と考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/3 (月)	16,598.67	△ 0.075	101.41	△ 0.044	△ 0.087	3,097,100
10/4 (火)	16,735.65	△ 0.075	102.00	△ 0.036	△ 0.087	3,088,300
10/5 (水)	16,819.24	△ 0.065	102.85	△ 0.030	△ 0.085	3,098,200
10/6 (木)	16,899.10	△ 0.065	103.46	△ 0.020	△ 0.083	3,072,600
10/7 (金)	16,860.09	△ 0.070	103.80	△ 0.018	△ 0.076	3,089,700

来週（10月10日から10月14日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/10 (月)	体育の日				米国祝日(Columbus Day)
10/11 (火)	8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府 15:00)				9月のFRB労働市場情勢指数
10/12 (水)	長野県金融経済懇談会にて原田審議委員講演 8月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	30Y 8,000億円 10/14発行	交付税借入 10,500億円 10/21借入		
10/13 (木)	8月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 44,000億円 10/17発行			
10/14 (金)	9月のマネーストック(日銀 8:50) 9月の企業物価指数(日銀 8:50)	5Y 24,000億円 10/18発行			9月の米生産者物価指数 9月の米小売売上高 8月の米企業在庫 10月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
10/10 (月)	体育の日								
10/11 (火)	700	▲ 40,300	▲ 39,600	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補充	▲ 2,500 ▲ 300 200 400	2,000 3,500 200	3,300	▲ 36,300	TB3M発行▲44000償還25400 TB6M発行▲35000償還17800 10Y物価連動▲4000
10/12 (水)	1,000	0	1,000	国債買入 短国買入	7,100 30,000		37,100	38,100	
10/13 (木)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	源泉税揚げ 社会保障費
10/14 (金)	0	64,000	64,000	全店共通	▲ 100		▲ 100	63,900	年金定時払い 30Y発行▲8000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	1,700	22,700	24,400	—	34,600	5,700	40,300	64,700	

10/11は日銀予想、10/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今週の流れを受け、引き続き無担保コールO/N加重平均レートは高目での推移になると考えられる。ただ、14日は年金定時払いがあること、3日積みとなり次の積み期間にかかること、等の要因から若干レートが低下する可能性もある。

短国市場は、日本銀行がしっかりと短国買入オペをオファーすることが確認された一方で、海外勢の買い意欲が一頃よりは落ち着いているため、レートは横ばいもしくは若干の低下が見込まれる。13日に3M物の入札が予定されており、結果が注目される。

CP市場は特段イベントが無い中、市場残高がどこまで回復するかが注目される。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入